



月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申込みください。

e-mailで [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp) 宛。

なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送りください。

## 人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿ください。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

### 東京大学宇宙線研究所准教授（テニュアトラック）

1. 准教授（テニュアトラック）1名
2. (1) 附属神岡宇宙素粒子研究施設  
(2) 岐阜県飛騨市

3, 4.

本研究所属神岡宇宙素粒子研究施設に所属し、次世代の大型核子崩壊・ニュートリノ実験（ハイパーカミオカンデ）の推進において、プロジェクトマネジメントにもかかわる中核的役割を担える方を求めます。スーパーカミオカンデ、T2K実験に参加することも可能です。

5. (1) 決定以降できるだけ早期  
(2) 任期5年。着任後約3年間をテニュアトラック期間とし、3年近く経過した時点でテニュア着任の審査を行い、審査で認められれば任期なしに移行します。

6. なし

7. 以下 (1) から (5) までの書類を、e-mailに添付（電子ファイル）で提出してください。(6) の意見書または推薦書は、作成者から直接e-mailに添付して応募締切日までに提出してください。応募書類・意見書・推薦書のファイル形式はpdfとします。e-mailによる提出に対しては、受信した旨の返信をしますので、必ず当方からの返信の有無を確認してください。

- (1) 履歴書

- (2) 研究歴（A4判で3頁以内）
- (3) 業績リスト（論文リスト、研究発表リスト等）、および主要論文別刷（3編以内）。  
提出する論文については論文リストに印を付け、一目でわかるようにすること。

- (4) 着任可能時期
- (5) 着任後の研究計画（A4判で3頁以内）
- (6) 意見書または推薦書2通

8. 2017年12月25日（月）17時必着

9. (1) 提出先

東京大学宇宙線研究所総務係

e-mail: [application@icrr.u-tokyo.ac.jp](mailto:application@icrr.u-tokyo.ac.jp)

(2) 問合せ先

東京大学宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設長 中畑雅行

Tel: (0578)-85-9603

e-mail: [nakahata@suketto.icrr.u-tokyo.ac.jp](mailto:nakahata@suketto.icrr.u-tokyo.ac.jp)

10. 応募書類の提出に対しては、受信した旨の返信をいたしますので、必ず当方からの返信の有無を確認してください。

11. 選考：選考委員会による書類選考の後、面接を受けていただくことを原則とします。面接を受けていただく方には詳細を連絡します。

予算：テニュアトラック期間は、研究予算100万円/年のスタートアップ支援をいたします。

その他：「東京大学男女共同参画加速のための宣言」に基づき、女性の応募を歓迎します。

## 研究助成

### 山田科学振興財団 2018 年度研究援助候補者推薦依頼

山田科学振興財団より、日本天文学会宛に2018年度研究援助候補者推薦依頼がありましたのでお知らせいたします。

【援助の趣旨および内容】

1. 本財団は自然科学の基礎的研究に対して、研究費

の援助をいたします。評価が定着して研究資金が得やすいものより、萌芽的で将来の発展が期待される基礎研究を重視します。推薦応募に際しては下記を考慮してください。

- 1) 萌芽的・独創的研究
  - 2) 新規研究グループで実施される研究
  - 3) 学際性、国際性の観点からみて優れた研究
  - 4) 国際協力研究
2. 援助額は1件当たり100～500万円、総額3,000万円、援助総件数は山田科学振興財団全体で15件程度です。
  3. 援助金を給与に充てることはできません。特に財団が指定した場合を除き、給与以外の用途は自由です。
  4. 援助金の使用期間は、贈呈した年度およびその次の年度の約2年間とします。

#### 【申請者資格】

1. 当該研究を独立して実施しうる者でなければなりません。すなわち、当該研究者は代表研究者であることを必要とし、単に研究グループの研究費集めの一端を担う者であってはなりません。
2. 身分、経歴、年齢等は問いません。ただし、日本の研究機関に所属する研究者であることが必要です。

なお、研究援助募集要項は、財団のHPを参照くださるようお願いいたします。

<http://www.yamadazaidan.jp/>

3. 天文学会への応募は以下のように行ってください。
  - ・日本天文学会締切日：2018年1月31日(水) 必着
  - ・申請書は、メールのPDF添付ファイルとして下記のアドレスにお送りください。

件名は、「山田科学振興財団 2018年度研究援助応募 氏名……」として送信くださるようお願いいたします。

受領後、確認メールを日本天文学会事務所より返信いたします。

[申請書送付アドレス]: jimucho@asj.or.jp

#### 【本学会からの推薦件数】

日本天文学会からの推薦件数は3件までとなります。応募された研究提案は日本天文学会が審査を行い、3件以内を山田科学振興財団に推薦いたします。

## 会務案内

### 日本天文学会 2017年秋季年会報告

2017年秋季年会は、9月11日(月)から13日(水)の3日間、北海道大学札幌キャンパス(北海道札幌市)にて口頭講演11会場、ポスター講演8会場を使って開催された。講演件数は口頭講演が504件、ポスター講演が205件で、合計709件の講演があった。年会参加者は一般555名、学生360名の計915名であった。また、以下に報告するように、通常セッションに加え天文教育フォーラム1件も開催された。展示コーナーは賛助会員による1件の展示があった。開催地理事の徂徠和夫氏や北海道大学の皆さんのご尽力により、順調に進行した。

座長は次の57名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し、感謝の意を表す。(敬称略)

#### 〈記者会見〉

日本天文学会2017年秋季年会記者会見は、年会初日の前日9月10日(日)14:00から北海道大学学術交流会館にて行われた。柴田一成会長が挨拶および日本天文学会の組織と活動の概要、今回の秋季年会概要、並行して開催中の公開講演会の紹介を行った。つづいて年会研究講演から2件について発表を行った。当日は報道機関4社の参加があった。また事前に研究者や日本天文学会事務所にも4社からコンタクトがあった。北海道放送が記者会見と学会会場の様子、柴田会長のインタビューを2日に分けて放送した。他のメディアも含め印刷版、オンライン版合わせて少なくとも225件の掲載を確認している。

今回の記者会見で発表を行ったもの:

#### 発表1

「銀河の形を運命づけた110億年前の転換現象～すばる×ハッブル×アルマの最強タッグで完全解剖～」  
但木謙一(マックスプランク地球外物理学研究所、国立天文台)、児玉忠恭(東北大学)

関連講演番号: X18a

#### 発表2

「世界最大級の電波写真集が描き出す銀河における星の誕生過程」  
徂徠和夫(北海道大学/筑波大学)、久野成夫(筑波大学)、村岡和幸(大阪府立大学)、宮本祐介(国立天文台野辺山宇宙電波観測所)

関連講演番号: V105a, R05a, R06a, R07a, R08b, R09b, R10b

(林左絵子)

	9月11日(月)		9月12日(火)		9月13日(水)	
	10:30-12:30	14:30-16:30	09:30-11:30	13:00-15:00	09:30-11:30	13:30-15:30
A会場	観測機器 松尾宏 (国立天文台)	観測機器 南谷哲宏 (国立天文台)	観測機器 小嶋崇文 (国立天文台)	観測機器/教育・他 縣秀彦 (国立天文台)	教育・他 大西浩次 (長野工業高等専門学校)	
B会場	銀河団 三石郁之 (名古屋大学)	銀河団/銀河 滝沢元和 (山形大学)	銀河 渡邊祥正 (筑波大学)	銀河 三浦理絵 (国立天文台)	銀河 中西康一郎 (国立天文台)	
C会場	コンパクト天体 岩切渉 (理化学研究所)	コンパクト天体 三好真 (国立天文台)	コンパクト天体 小出眞路 (熊本大学)	コンパクト天体 関口雄一郎 (東邦大学)	コンパクト天体 川中宣太 (京都大学)	
D会場	恒星 須田拓馬 (東京大学)	恒星 板由房 (東北大学)	恒星/星・惑星 伊藤洋一 (兵庫県立大学)	星・惑星 生駒大洋 (東京大学)	星・惑星 田中秀和 (東北大学)	星・惑星 塚本裕介 (鹿児島大学)
E会場	太陽 岩井一正 (名古屋大学)	太陽 久保雅仁 (国立天文台)	銀河核 寺島雄一 (愛媛大学)	銀河核 中川貴雄 (JAXA)	銀河核 野田博文 (東北大学)	銀河核 高橋真聡 (愛知教育大学)
F会場	星・惑星 岩崎一成 (大阪大学)	星・惑星 須佐元 (甲南大学)	星・惑星 齋藤正雄 (国立天文台)	星・惑星 井上剛志 (名古屋大学)	星・惑星 西合一矢 (国立天文台)	
G会場	星間現象 内田裕之 (京都大学)	星間現象 鳥居和史 (国立天文台)	星間現象 藤田裕 (大阪大学)	星間現象 佐野栄俊 (名古屋大学)		
H会場	観測機器 美濃和陽典 (国立天文台)	観測機器 矢野太平 (国立天文台)	観測機器 阿久津智忠 (国立天文台)	観測機器 田村直之 (東京大学)	観測機器 峰崎岳夫 (東京大学)	
I会場	観測機器 内山秀樹 (静岡大学)	観測機器 馬場彩 (東京大学)	観測機器 水野恒史 (広島大学)	観測機器/太陽 清水敏文 (JAXA)	太陽 久保勇樹 (情報通信研究機構)	
J会場	銀河形成 長峯健太郎 (大阪大学)	銀河形成 斎藤貴之 (東京工業大学)	銀河形成 柏川伸成 (国立天文台)	銀河形成 白崎裕治 (国立天文台)	銀河形成 森川雅博 (お茶の水女子大学)	銀河形成 石山智明 (千葉大学)
K会場	宇宙論 田代寛之 (名古屋大学)	宇宙論 山崎大 (茨城大学)	太陽系 飯野孝浩 (兵庫県立大学)	超新星爆発 勝田哲 (中央大学)	超新星爆発 中村航 (福岡大学)	

〈天文教育フォーラム〉

天文教育普及研究会との共催で、2017年9月13日(水) 13:30より15:00までA会場にて「天体観測のプロ・アマ連携：新しい展開」をテーマに行われた。参加者数は、約50名であった。

今回のフォーラムでは、これまでの天体観測のプロ・アマ連携の現状を振り返りつつ、より良い「プロ・アマ連携」を目指すための方策を会場参加者とともに議論することを目的として、プロ、公開天文台、アマチュアのそれぞれの立場から話題提供として三つの講演をいただいた。

始めに、プロの立場から北海道大学の高橋幸弘氏より、「金星探査機あかつきと地上望遠鏡で臨む金星大

気の謎」と題して、金星での雷の有無を例に、観測時間が短くまだ決着のついていない現象の解明にアマチュアによる継続的な観測が重要な役割を果たすであろうこと、そのためには、観測方法の標準化や校正方法の規格化が必要であることなどが語られた。

次に、名寄天文台の内藤博之氏より、「公開天文台におけるプロ・アマ連携」について、公開天文台の歴史と現状、公開天文台の「使える」望遠鏡や、Zooniverse、KISS(木曾超新星サーベイ)といった市民参加のプロジェクト例が紹介された。また、アマチュアのレベルに応じて、プロとアマチュアとの間をつなぐ役割、「プロ・アマ連携」の橋渡しという点での公開天文台の重要性についても言及された。

最後に、月惑星研究会の田部一志氏より、「木星観測におけるプロ・アマ連携—アマチュアによる画像の活かし方」として、アマチュアによる高解像度の画像（口径15 cm程度の望遠鏡とWebカメラと画像処理によりプロ用の大口径望遠鏡と遜色のない画質のものが得られるようになった）の紹介やそれらを用いたプロによる論文の例が紹介された。また、観測を行ったアマチュア自身による論文作成までのさまざまな壁についてもコメントされた。

ディスカッションでは、まず、田部氏から参加者への「アマチュアとつきあいあるプロの方はいますか？」の問いに答える形で、変光星観測、太陽観測、小惑星、流星、新天体発見、などの連携例が報告された。さらに、良い連携にはプロのコーディネータの存在が鍵との指摘や、スーパーサイエンスハイスクールにおける指導者の必要性など、より良い連携を行うために必要な観点からの活発な議論がなされた。

(石井貴子)

#### 〈懇親会〉

年会2日目の9月12日(火) 18:30より、キリンビール園本館中島公園店において懇親会が開催された。一般207名、学生154名の合計361名の参加があった。このうち、当日申込みは一般20名、学生40名であった。当日申込み数が多かったが、会場がピアホールであったこともあり受け入れが可能であった。当日キャンセル(連絡なしも含む)が14名あったが、これも当日申込み数が多かったことで吸収できた。開催地の北海道大学より来賓1名、年会開催にご尽力いただいた学生9名を招待客とした。

懇親会は開催地理事の徂徠の進行で始まり、柴田一成天文学会会長による挨拶、開催地の北海道大学を代表して同大大学院理学研究院の石森浩一郎研究院長から歓迎の挨拶、元天文学会会長の岡村定矩法政大学教授より乾杯のご発声をいただいた。北海道を代表する料理ジンギスカンの食べ飲み放題でシンプルではあったが、提供するものがなくなるということがなく、参加者にはご満足いただけたようである。また、会場が吹き抜けのホールであったことも珍しかったようで、懇親会終了後に会場の写真を撮っている参加者が多数見られた。懇親会終盤に、次回開催地である千葉大学の花輪知幸開催地理事より挨拶と次期年会への参加の呼びかけがあった。その後、20時半に散会となり、最後の参加者が会場を去ったのは21時前であった。

(徂徠和夫)

#### 〈保育室〉

北海道大学札幌キャンパス内の教室をお借りして保育室を開設した。8家族10名の利用があった。会場との位置関係の都合上、常に監視係を配置していただくなど北海道大学のスタッフに多大なるご協力いただいたことを感謝する。

(石川遼子, 町田真美)

#### 〈公開講演会〉

年会初日の前日9月10日(日) 13:00-16:00に、北海道大学の学術交流会館において「南極で探る宇宙」と題して公開講演会が開催された。講師は、望月優子氏(理化学研究所研究ユニットリーダー/埼玉大学連携教授)、中井直正氏(筑波大学教授)の2氏にお願いした。

講演会は、天文学会天文教育委員で滋賀大学の大山真満氏の司会により、柴田一成天文学会会長の挨拶、つづいて講演内容と関連の深い開催地の北海道大学の徂徠から大学の紹介があった。講演は、望月氏が「南極アイスコアからひもとく私たちの宇宙と地球の歴史」と題して、南極の氷からわかる過去の地球や宇宙の情報についてお話しいただいた。南極大陸にある日本のドームふじ基地で採掘されるアイスコアから、過去の太陽活動や地球の気候変動、また、過去に天の川銀河で起きた超新星爆発の情報が得られるということをわかりやすく解説いただいた。休憩を挟み、中井氏が「南極望遠鏡でさぐる銀河の謎」と題して、南極に建設を目指すテラヘルツ望遠鏡を用いた原始銀河の探査についてお話しいただいた。南極はテラヘルツ波の観測に非常に適したサイトであり、宇宙初期に形成された星形成が活発な暗黒銀河の探査、また、観測基地での生活についてわかりやすく解説いただいた。

聴衆は102名で、高校生から一般まで幅広い年齢層の参加者があった。今回の講演会は、一見関連のなさそうな天文学と南極というキーワードを組み合わせた挑戦的な企画であったが、両氏がたいへん興味深いお話をわかりやすくしてくださったため、たいへん好評で高校生から一般まで多くの質問があり、非常に白熱する講演会となった。

(徂徠和夫)

(年会実行委員長: 寺田幸功)

入会・移籍・退会のお知らせ

2017年9月に開催された公益社団法人日本天文学会理事会において、正式に入会・移籍が承認された方、退会が報告された方の人数をお知らせします。

**入会** 正会員：111名 準会員：29名  
**移籍** 準会員→正会員：2名  
**退会** 正会員：1名

編集委員会より

2018年表紙デザイン決定

来年の天文月報表紙デザインの募集に対しましては、7件の応募がありました。いずれ劣らぬ力作でしたが、厳正なる選考の結果、小路真木子さん・森崎巧一さんのお二人による作品に決定いたしました。新しい表紙をお楽しみに！

※パスワードが変わりました！※

天文月報オンライン/投稿用アップローダーのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード：雑誌コード（5桁の数字と）**vol110**（6文字）の計11文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○-▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

小宮山裕（委員長）、上野悟、岡部信広、奥村真一郎、押野翔一、滝脇知也、富田賢吾、中村航、萩原喜昭、松田有一、諸隈智貴、山田真也

平成29年11月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8 株式会社 国際文献社

定価720円（本体667円） 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359（事務所）／0422-31-5488（月報） Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)

会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会2017年（本誌掲載記事は無断転載を禁じます）